

## 令和2年白老町議会産業厚生常任委員会会議録

令和2年 5月22日（金曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午後 2時07分

---

### ○会議に付した事件

所管事務調査

1. コロナウイルス対策に伴う町内事業者の現状と対策のあり方について

・参考人からの意見聴取

---

### ○出席委員（7名）

委員長	広地紀彰君	副委員長	森哲也君
委員	及川保君	委員	西田祐子君
委員	久保一美君	委員	長谷川かおり君
委員	貳又聖規君		

---

### ○欠席委員（なし）

---

### ○説明のため出席した者の職氏名

（参考人）白老観光協会会長	福田茂穂君
（参考人）白老観光協会副会長	上村篤正君
（参考人）白老観光協会専務理事	蒲原亮平君
（参考人）白老観光協会事務局長	千葉勝宏君

---

### ○職務のため出席した事務局職員

主 査	小野寺修男君
書 記	村上さやか君

---

## ◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） これより産業厚生常任委員会の所管事務調査を開会いたします。  
(午前10時00分)

---

○委員長（広地紀彰君） 本日は所管事務調査として、コロナウイルス対策に伴う町内事業者の現状と対策のあり方について、白老観光協会を代表される皆様を参考人としてお招きをして、コロナウイルスによる町内事業者の現状等についてのお話を伺ってまいりたいと思います。

本日は白老観光協会より、福田会長、上村副会長、蒲原専務理事、千葉事務局長がお見えになっております。新型コロナウイルス感染症予防のために会議中に時折換気等を行うことがありますのでご了承いただきたいと思います。それでは、町内の観光業界における現状等について白老観光協会の皆様にお話を伺いたいと思います。よろしくお願いします。

福田白老観光協会会長。

○白老観光協会会長（福田茂穂君） 白老観光協会会長、福田茂穂です。今日の参考人招致ということで、できる限りの協力をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

現在、観光協会はウポポイの4月24日のオープンを抑えていて、延期、延期ということで本当に逼迫している状況です。その中で職員、臨時職員も含めて、臨時職員はもう仕事がありません。それで白老観光協会としては、一日でも早いオープンを迎えたいというのが願ひ事です。今、6人新しい臨時職員を入れたのですが、駅北の改札の切符切りの仕事の作業の部分では一切開けられない状態です。あと、物販の部分も観光インフォメーションが開けられないという状態ですから、全く機能していない状態ということで、本当に臨時職員と一般の職員たちも日々不安と、いつできるのかという希望を願っているというところだと思います。

その中で私が思うには、少々話はそれなのですが、2012年11月27日に登別大停電がありました。そのときに、まち全体が真っ暗になって、登別近隣の4市町村も全部真っ暗になった状況が続いた中で、やはり不安にかられたときがありました。私が何を願ったかというのは、やはり不安でしたから、行政の力、議員さんたちの力とかというものをすごく頼ったというのか。その中で神戸先生がいち早く私どものホテルに状況を聞きに来てくれました。それはやはり私たちは安心します。そういう人たちが来てくれて、どんなことがあっても応援するというのと、何かあったらすぐ来てくださいということを言われたということは安心します。今、こういうコロナウイルスの状況の中で、果たして議員さんたちが今、どういう状況で各商業施設の社長さんたちとか、各自治体の長の人たちとかに状況を聞きに回るなど、そういうことをなされているのかということで、多分私のホテルのところには、1人電話で来られた方がいます。でも本当に町内全体の人たちが不安にかられている中で、やはり議員さんたちがそういうときにこそ動かなければいけないのではないかと思います。今日もそうです。今日も私たちも時間も割き、仕事も割き、この今の三役はボランティアで頑張っています。観光協会の中で白老をよくしようと思って頑張っています。その中でボランティアとして動いて、参考人要請ということで時間を割いて来ています。それすらも私たちは考えま

した。その中で議員さんたちにいろいろ私どもの個人のところに来てくださいますとは言いません。何か問題ありますかとか、そういう部分から始まっていいのではないかという思いはします。私の思いはそこで終わらせてもらいます。

白老観光協会は今、前に向かっています。ただ、前に向かっていくけど、収束が見えない中でどういう方向でいったらいいかということは今、三役でも理事会でも話をして、いろいろな問答をしながら前に進もうとしています。次のアクションも起こそうとしています、それもメディアも使うのも何も全部、今、北海道がこういう状況の中で動くな、出るなという状況にありますから、それができない状況であるのが現実です。それに向けての準備は私どもはやっております。その詳しい話は、後でうちの事務局から詳しい進捗状況等などについて話をさせていただきたいと思っております。

**○委員長（広地紀彰君）** 今、福田白老観光協会会長からのご指摘のとおり、私たち議会もコロナウイルスの影響については、大変な状況になるという認識の下に、今回お時間を割いていただきましたが、前は白老商業振興会で飲食店を中心に聞き取りさせていただきました。さらに今回は白老観光協会さんから、観光に携わっている方たちを中心に構成された団体であると私は認識しております、特に白老観光協会に加盟をされている事業者の方たちの状況について、ちょうど、副会長や専務理事も今日お越しいただいております。ですから、業種も違いますので、特に福田白老観光協会会長は宿泊業の関係の人脈等もあると思いますので、そういった福田白老観光協会会長の押さえられている事業所の被害の影響だとか実態を、具体的にいろいろとお話をいただければありがたいのです。

福田白老観光協会会長。

**○白老観光協会会長（福田茂穂君）** ホテルのほうは、虎杖浜、竹浦連合会の理事会で全部のホテルの人たちと話をしました。3月、4月は、2月からこの傾向は続いています、もう50%、60%、70%の減少ということで、5月はもっとひどくなっていく状況です。その中でいろいろな方向も今、考えてやっております。連合会としてもそうですが、弁当の仕出しなどという部分で、それは町中の弁当、仕出しをお互いに行き来するという中で、やはり町内の困っている人たちを全部使わなければいけないと思っております。その中でその流れを作ろうとしています。あとは、本当に私たちは明日がどうなるのか、来月がどうなるのか、今年中会社がもつのかという、逼迫している状況があり、毎日そのことで悩んでいます。その中で町の行政、北海道の行政、国の行政としては、やはり第2弾、第3弾の追加の何かがあれば、私どもも少しはそれに向けたつくり方ができるのではないかという思いがします。その中で一番ホテルの中で大きいのは、宿泊のお客さんがまるきり少なくなったことはもとより、私どもホテルの箱物を持つ業界は、私も事業主として、後で連合会から観光協会を通して、一応町に上げようと思うのですが、入湯税の減免をしていただきたいということをお願いしようと思っております。それは要望として上げようと思うのですが、ここはこの場でお聞きしたいのですが、これはどういう方法で出したらいいのかということを知りたいと思っております。

**○委員長（広地紀彰君）** 暫時休憩いたします。

休憩 午前10時09分

---

再開 午前10時11分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

福田白老観光協会会長。

○白老観光協会会長（福田茂穂君） あと1点あります。つい4日前、登別観光協会と打ち合わせをしました。それで登別観光協会でも、ウポポイを見据えて今まで進んできたということで、すごく期待をしているということで、登別観光協会も延期が危惧されているというのを言っていました、登別観光協会がぜひ今度白老と一緒に連携するという、今まではちょっと違っていたのです。白老が登別と一緒に連携するという事だったのです。それが今は登別もひどい状況の中でインバウンドも入らないというのが見えています。その中で登別のほうも白老、虎杖浜、竹浦連合と一緒にホテルも連携しながらやっていきたいという話をいただいて、それはいいことだと思いますということで話はしてありまして、その中でいろいろなオープン時に鬼花火だとか、そういうことも一緒に協力できればしていきたいという話をさせていただきました。これはまだ内々の話なのですが、お互いに隣まちですから、隣には大きい箱物もありますから、その中で本当にここが登別と白老と一枚岩になって連携してやっていけるのが理想的なパターンだと私は思って話をしてみました。

○委員長（広地紀彰君） それでは続きまして、上村白老観光協会副会長、いろいろと仕事の関わりもありまして事業所の状況を承知されていると思いますので、その辺りのコロナウイルスの影響についてのお話をいただければと思います。

上村白老観光協会副会長。

○白老観光協会副会長（上村篤正君） 上村です。よろしくお願いたします。私どもの現状と、それから情報という部分でご報告させていただきたいと思います。

まず、私どもとしては、和牛の生産から加工、販売というところまでやっているのですけれども、和牛生産のところで申し上げると、非常に厳しい状況であります。私がこの産業の6次化の事業は、BSEが発生した当時に始めました。本当にそれと変わらないくらいの非常にひどい現状であります。数字でいうと、今まで和牛を1頭仕上げ販売したときに、大体うちで1頭150万円や160万円していたものです。キロ単価でいうと2,600円とか、それぐらいの単価をつけさせていただいて年末などに販売しておりました。ところが先月、販売したところによると1,600円していたものが一番高いA5等級で1,400円、A4等級で1,300円、1頭当たりにしても60万円、70万円。10か月までの素牛の販売でも、ついこの間まで70万円、80万円しているのですが、それよりもまだ安くなっているという状況に今陥っています。ただ、若干国の政策でいろいろな補助が出てきて、要は冷凍庫にストックしたらお金が出るという一時的な補助金が出ているおかげで少しだけ買いは戻っているのですけれども、根本治療には全くなっていないということです。ただ、在庫処理だという状況です。ですから、それぐらい非常に売れていないというのが現状です。おそらく全く売れていないところが一番の原因ですので、そこを直さない限りいくら補助金を入れたところで我々の経営は全然安定しないという状況になっているようです。それから、我々としては今加工と販売

を行っているのですが、売上げの半分近くを占めていたのが、いわゆる百貨店関係です。百貨店関係については、いわゆる御存じのとおり、北海道物産展、こういったもので販売をしておりました。非常によい成績というか、よく売れる販売先でありましたので、非常に我々としては助かっていました。なおかつスーパーと違ってあまり安売りをしなくてもいいと、我々の価値をしっかりと伝えられるということで非常に我々のチャンネルとしては重要だったのです。ところが御存じのとおり、今は全くできない状態にありまして、非常にそういったところで苦慮していました。当社におきましても、金融機関等に支援を仰いでいますが、売上げは今大体前年比で70%落ちています。3割しか売上げがないという状況ですので、非常に厳しい状況ではあります。飲食部門についても、逆に今変にアピールすると非常に悪いイメージもあるのでなかなかそれできません。そういう厳しい状況の中にいます。ではどこの段階で自粛をしているところから打って出るかというタイミングを今、非常に探っているところでもあります。逆に全国津々浦々皆さんが同じ状況ですので、そのタイミングを探っているような状況なのですけれども、逆に我々は一步遅れてしまうと埋没してしまうという懸念もあります。ですから、フライングをすることにはならないのですが、やはり先手、先手で打っていかないと何もなくなってしまいます。あとは最後、こういうときというのは資本力の差が出てまいりますので、お金のあるところがしっかりと残っていて、ないところはつぶれていかざるを得ないという状況であります。

あと、国の支援策等々においても、いくらでもお金を貸すといわれています。3,000万円でも、4,000万円でも、1億円でも何でも貸すといっています。ただし、そのお金についても全く返す当てはないです。現在はそういう状況です。金融機関は今来ています。いくらでも貸すと簡単に言っています。でも、はいそうですかにはならないです。これだけの数か月の間に何百万円、何千万円という損失を出しています。それをたった数年の間に払っていくということは基本的にはどの企業もできないと思います。その中でこれから今、我々は利益を出して借りたお金を返すという行為をしていかなければいけないというところで、非常に今厳しい状況であると思っております。多分、私どもだけではなく、いろいろなところの業者の方々は同じ状況ではないかと推察されます。

**○委員長（広地紀彰君）** 特に一事業者としてでも結構なのですが、上村白老観光協会副会長の事業所でもウポポイ開設を見据えて飲食部門の投資をされたり、やはりウポポイがこのコロナウイルスの影響で開業が延期になったり、そういった部分の影響はどのように捉えられていますか。

上村白老観光協会副会長。

**○白老観光協会副会長（上村篤正君）** 現状は、正直な話、ウポポイ以前の問題ですので、確かにウポポイがあれば非常に資本を入れて前向きに準備をしていたのですが、それ以前のところにまで今はきていますので、何と書いていいのかわかりません。

**○委員長（広地紀彰君）** やはり遅れているのでしょうか。そういったような具体的な影響はどのようなものですか。

上村白老観光協会副会長。

**○白老観光協会副会長（上村篤正君）** 御存じの方もいると思うのですが、うちは元々、去年、一昨年からマザーズさんのところの出店を考えていまして、ただ、それが6月27日と、元々その設定

にしていたので、実際遅れるということにはなっていないのです。ただ、状況的に今これから出店するのはどうなのだろうかと考えていました。第3波、第4波が来たときのタイミングに当たってしまったら、テレビ取材も入らないとか、そういう懸念はあるのです。ただ、はっきり申し上げると、それを考えていたのでは全くもって先へ進まないで、まして新規のそういった出店に関しては、先ほど申したとおり、現状で商売をただけでは今借り入れたお金を返すことができません。ですから新しい出店こそが、その借り入れたお金を返す唯一の方法だと私は考えていまして、そういう方向で考えております。

**○委員長（広地紀彰君）** それでは、続きまして蒲原白老観光協会専務理事、水産加工の関係を中心にいろいろと観光関連に物を出せないだとか、あとはお客さんの数の減少等々、様々な影響があると考えられるのですが、その辺りについて具体的にお教えいただきたいと思います。

蒲原白老観光協会専務理事。

**○白老観光協会専務理事（蒲原亮平君）** 虎杖浜の蒲原水産の蒲原です。よろしくお願ひします。先ほど福田白老観光協会会長も申し上げましたが、やはり全体的に観光客、宿泊者がいないとなると、そこに卸す鮮魚であったりとか、我々でいくと加工物のタラコであったりとか、というのも2月末からほぼ受注はゼロに近い状態です。ですので、うち以上にいろいろなところに納めているところ、特に部屋数とかが多い、例えば登別温泉さんとかに納めている業者も白老町にはいるのです。そういうところはもっと打撃を受けているかと思っています。でも、我々の業界はこの4月ぐらいで道路脇にタラを干していると思うのですが、すき身ダラ干しが終わったらパートさんたちも全て一度失業の状態に入ります。ちょうどそこにぶつかっているのが、深刻になるほどの打撃というのは今、実際そこまで、例えば宿泊業とか、飲食業の方よりかはないのです。これが例えばこういう状況がずっと続くと今、経済が止まっていますので、例えばお中元はもう絶対ないと思いますし、お歳暮となったときに、そこで年間の売上げの4割、5割をこの12月の1か月、単月で稼ぎ出すのです。そこがこけると、もうとても大変なのです。今、事業者としてはそうならないように、そこに頼り切らないようなシフトチェンジが絶対に必要になってきますし、それができないような業者は多分、辞めていくのだろうと思います。あと、長年続いている加工屋がほとんどなもので、実際ちょっとした企業的な体力というのはいくらかあるはずなのです。ですが、これがいつ収束になってという、先々の希望の光が見えていない状況の中では単月ですと少しずつ少しずつでも赤字を出しながらでも踏ん張ってはいるのですが、例えば私みたいに三十何歳だったらいいのですが、もう70歳を過ぎたような方で経営者をやっていて、そして跡継ぎもいないというところが何軒もあるので、そういうところはこれを機にといいはなんです、多分これで倒産ではなくて廃業というような形も出てくるのではなかろうかと私は思います。そうするとやはり虎杖浜、竹浦地区の水産業としての力は一気に弱まります。どんなに小さい会社であろうとやはりあるのとなないのでは絶対違いますので、その辺は出てくるのではなかろうかと思うのです。この1年、2年の影響で。損切りといえは損切りなのでしょう。そこを判断するのも経営者だと思います。また、先ほど上村白老観光協会副会長も言うておりましたが、いろいろな政策で銀行からも国からもということで借入れのご提案はいただくのですが、もらえるわけではないので、本当にその返すめどというのをまだ

見だしきれないという状況がありますので、本当に貸してくれるというのだったらすぐ借りるというわけにもいかないというのが現状です。あと、我々のこの地域とはまた別なのですが、例えばオホーツク地方とか、青森、函館、道南噴火湾のほうだとホタテがこれから養殖も天然もどんどん揚がっていくのです。ほとんどが6割ぐらいから7割ぐらいは中国向けの輸出で、玉を取ってそれを冷凍で輸出するのですが、それも今は全くっていない状況なのです。やはりやり方も大きいので、一瞬で何億というのが上がったりもするし下がったりも飛んだりもするので、大きい会社さんほど今は大変かと思います。小さいところは売上げも少ないですけどもダメージも少ない。本当に大きくやっているところは大変で、研修生とかで従業員の力を賄っているというところがあって、その研修生たちも今は余している状態が続いているので、その辺も多分経営者は苦勞されているのではないかと考えております。元々、水産業もそんなに明るい業界ではないので、そんなに現時点では深刻ではないですが、これがあと2、3か月続くとすると12月がどうかという心配は出てきます。

**○委員長（広地紀彰君）** それでは、最後に千葉白老観光協会事務局長から、協会の立場からコロナウイルスの状況等々について把握している範囲でお話をいただければと思います。

千葉白老観光協会事務局長。

**○白老観光協会事務局長（千葉勝宏君）** それでは、私から数字的なお話も含めまして現在の協会の取組等々ということでお話をさせていただきたいと思います。ご承知のとおり、現時点で我々としても町より指定管理を受けており、観光商業ゾーン、ポロトミンタラでございます。4月1日から開業はしたものの、19日で一旦クローズという形で、観光インフォメーションセンターに観光案内のみという形で約2,819名が来場されました。物販行為はしていない状況でございます。1日148名の方々が来ていて、今もクローズされていてもお客様は頻繁に来て、自動ドアの前に来ていただいて開いていないということでお帰りになっているところが多々見られているところでございます。我々としてもやはりウポポイがオープンしていないこの状況を非常に死活問題といいたいまいしょうか、そういう状況でありますので、一日も早くオープンするということを心待ちにして、我々としては今できることを最大限やりましょうということで準備をしているところでございます。

その中で今我々の心配事等々につきましては自主財源です。指定管理につきましては、町から指定管理料としていただいておりますが、自主事業におけるリース代ですとか、そういったコストというのですか、固定コストがやはり4月からかかっているというところもあります。現時点では物販行為ができていない状況の中で、そういった月々の支払い等々が出ているというのが現状としてございます。それから先ほど福田白老観光協会会長からもお話がございましたが、職員が休業している状況で、それに対する休業補償も含めて何らかの方法がないのかということで、国の政策、それから町にお願いというようなことで現在そちらも進めているといいたいまいしょうか、調整をしているところではございますが、まだ支給等には至っていないのが現状でございます。現時点で当協会ができることということで、元々の施設ということで情報発信をしていきたいということの思いの中で、現時点でSNSの活用ということで新聞等にも書いておりますが、しらおいナビの大江さんと連携をいたしまして協会のホームページとリンクを貼って、そちらの情報発信等の協力もさせて

いただいているところでございます。それから、苫小牧フェリーターミナルのご好意によりまして、ウポポイフェアを2月27日から現時点まで開催をしております、5月31日まででございますが、現時点で約35万円の売上げがあります。白老のお土産等々をフェリーターミナルに持っていきまして、来たお客さんに対して販売をしているところも取組として行っているところでございます。またシービーツアーズという中央バス連携をしている旅行会社と連携をいたしまして、バスツアーの協力でこちらの準備をしていたわけなのです。こちらはウポポイがオープンしたときに約30本のツアーを造成していただいて連携を図り、なおかつ町の交流促進バスとの連携を図った中で白老に来たときにはそのバスに乗っていただいて町内、宇白老という形にはなってしまうのですが、そちらを周遊してお食事とお土産等を買っていただいて次の目的地に行っていただくような取組の準備をしていたわけなのですが、そちらもまだストップしているというような状況でございます。あと、従前から行っております白老ねっと商店は当協会のホームページで、ねっと商店の充実ということで、現時点で観光商業ゾーンに置いてあるアイヌの工芸品ですとか、雑貨、そういったものを1週間に1回ずつ、5点から10点ぐらいをアップいたしまして、現時点で100点ほどアップをさせていただいております。そちらの販売については、5月17日時点で約10万円の売上げがありまして、実際に手に取って買えないのですが、ネットでのそういった販売行為も現在しているところでございます。

それから、数字的なお話を申し上げますと、まだ速報値でございますが、町の観光客入込調査で、令和元年度の数字が先日まとまりました。まだ町からは発表はされておられません、総数で約159万6,000人、前年対比で106%という状況でございます。内訳といたしましては、宿泊数は10万2,000人、約120%、日帰り客数で149万4,000人、105%、白老地区、虎杖浜地区ということであれば、白老地区では66万2,000人、約110%、虎杖浜地区については93万4,000人、103%ということです。本来であれば3月から落ち込んでいるところでございます。今、4月、5月はまさに町内はどっこも落ち込んでいるというのは言うまでもありません。それでも2月ぐらいまでの間で増という形の数字が出ているというような評価になっているところでございます。先日、官公庁でも発表されましたが、4月の訪日外国人につきましては2,900人で、非常に過去類を見ないということで発表されております。前年同月でいけば99.9%で発表をされておまして、月別で1万人を割るということは、統計調査以来初めてだという発表もされております。政府としてはG o T oキャンペーンとか、そういった観光政策で早くから打ち出しているところでございます。

先日、町議会でも承認をしていただきましたが、町としてもいろいろな交付、政策的な部分でやっているところと存じております。我々としても収束を待つということではなくて、先ほど上村白老観光協会副会長からも言いましたけども、先手を打った形ということも必要なかと捉えているところでございます。そういった部分では北海道ですとか、白老町と連携を図りながら要望書等を提出して、新たな事業ということで地域に根差した事業展開をしていきたいということで、現在その要望書等を取りまとめて提出したいと考えております。雑駁でございますが、現状の報告という形に代えさせていただきます。よろしく申し上げます。

○委員長（広地紀彰君） 大変、具体的で、それぞれの立場からコロナウイルスの影響についての

ご説明をいただきまして本当にありがとうございます。

それでは、委員各位からの白老観光協会様に対しての質疑をお受けします。白老観光協会の皆様につきましても発言するときは挙手にてお願いいたします。

それでは、質疑をお受けします。質疑のある方はどうぞ。

西田祐子委員。

**○委員（西田祐子君）** 本日は、お忙しい中ありがとうございました。私から観光関係が特に落ち込みがひどいということで、私たち委員会といたしましても実際にどういう状況になっているのか、全体の姿をお伺いしたいと思い御足労いただいたわけです。私たちは肌では何となく大変だというのは感じていますが、実際に閉店してらっしゃるお店に行ってみると張り紙されて、大きいところも結構閉店していますし、実際に観光客も全くいません。そして実際に道路を走っていても、車を運転していても、まず人がおらず、運転している観光客らしき人たちがほとんどいない状況の中で、今ほどもおっしゃっていましたが、国からの補助金がほんのわずかで、あとは全部貸付けの状況であるとのこと。そういう中で実際には返済していくのも厳しいという意見がありましたけれども、私もそう思っています。ただ、5年間の据置期間があって、その後5年間の返済という状況だと思うのです。現実的にどのような状況になったら何とか返せるのかと聞いていらっしゃるのでしょうか。先ほど上村白老観光協会副会長は新しい事業を展開していくしか切り口はないだろうとおっしゃっていました。現在個人でも結構ですし、白老観光協会全体でも結構ですけれども、この状況が回復していくような状況になるには2、3年はかかるみたいなのですが、そういう状況の中でもこういうやり方をしたらどうだろうというお考えについて、先ほどは入湯税の減免とは言っていましたけれども、登別、白老、虎杖浜の観光連携、具体的にどのようなことをやっていくのかということがもしありましたら聞かせていただきたいと思います。私たちもそういうお声を直接聞かせていただいて、本当にできるものであれば、町の予算からでもお金を出していただいても、そこは強力に応援したいと思っております。本日来ていただいているわけですから、忌憚のないお話をぜひ聞かせていただければありがたいと思います。

**○委員長（広地紀彰君）** 福田白老観光協会会長。

**○白老観光協会会長（福田茂穂君）** 今のご意見ありがとうございます。私どものホテルでは、次に何かをするという手立ては、冒頭私が話をしましたけれども、町内の仕出し組合とか、上村白老観光協会副会長のところの弁当を使ったものの、一応宿泊ではなくて日帰りに特化して部屋を使ってもらって、お弁当を食べてもらって、お風呂に入ってもらって、そういう仕組みづくりを連合会としてやっていきたいと思っております。それは連合会の中でも全員意見はまとまっています。やはり仕出し組合など、いろいろな業者が今、困っていると思うのです。その困っている業者同士がつながっていかないと、これが成り立たないと思っております。それだけでは到底、今までの売上げには届かないわけです。あとパートさんのところでは、うちも小さいながら40人近くのパートさんがいます。その中で母子家庭の人などもいますが、今月の支払いが困るとか、来週のお金が困るといふ人がいます。その中でこの2月、3月、4月の仕事がない中でどうしたらいいのか。会社で貸し付ける、そういう部分でもお金がない状態では無理だと思っております。それで私もいろいろつてを

頼って、知り合いの農家のオーナーさんに頼って、日当でいいからうちのパートさんを使ってくれないかということで、安平町に1週間10人ずつ取りあえず使ってくださいということで、手探り状態のことをやりました。それでも本当に1週間の日当をもらっただけでパートさんたちは喜ぶぐらい、何万円でも喜ぶのです。そういう具体策が町に何か、町でもいろいろコネクションとかあると思うのです。そういう困っているパートさんたちをどこかにうまくつなげていけるということを見いだしてもらえればありがたいのかと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 上村白老観光協会副会長。

○白老観光協会副会長（上村篤正君） 私としては、一事業者としてお願いしたいと思うのは、まず先ほど申したとおり、次の先手の一步を打ちたいと考えております。その一步を出す前提になるのは、やはり一致団結した力が必要だと思えます。雰囲気づくりだと思います。ここを議員の方々にもぜひとも率先して雰囲気づくりをしていただきたいということがあります。こういう場というのは少々どうかと思うのですが、この直近3年間の中で私たちが見ていると、残念ながら議会を見てどういう答弁されているかと私は見ていないのですが、何かうまく一つになって、これをやっついこうという感じではなくて、極端な言い方をすると、そんなものやっても駄目でしょうという前提で何か事業を進めようとしているのではないかと、そういう雰囲気を私個人は感じる場所があるのです。何年か前にあった事業を、今この時期になってあのときにやったのが失敗したかどうかという言い方は、やはり我々としては前に行こうという考えのときに、非常に我々としては足かせになってしまいます。あのときやったのが失敗だったというような言い方をされても非常に困ります。ですから、多少のことがあったとしても前へ行くという、そういう意気込みをぜひとも押ししてほしいのです。失敗したとしたら、やはり我々も頭を下げます。ですから皆さんも一緒になって、失敗したときは頭を下げるしかないと思うのです。そこを発言される方々は、それだけの覚悟を持ってやってもらいたいのです。先ほどの話ではないですが、我々も3割しか売上げがない中でしっかり覚悟を持って経営しております。ぜひとも皆様にもその覚悟を持って、この雰囲気づくりをしっかりしていただいた上で、これから我々がやろうとしている事業を後押ししていただきたいのです。そこはしっかりとお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 厳しいお言葉ありがとうございます。私たち議員もその辺はきちんと心に留めてやっていかなければなりませんし、今この状況の中で白老のまちの人たち全員がどういう暮らしをしていくのかというのが本当に危機的状況だと思っております。その中で昨日もコロナウイルスに対する行政の考え方というものをいろいろ議論させていただいたのです。思った以上に時間がかかりまして、多分これから行政ともやっていくと思うのですが、私たち議会もそれに対して協力してやっていきたいという思いと、それからもっとよい知恵はないだろうかというところを模索している状況です。私たち議員一人一人が少ない知恵の中でできることというのは、本当に皆さんがなさろうしていることを後押しすることぐらいしかできないものですから、その辺はやはり事業者の方々に頑張っていただいてというのが基本だと思っております。だから、今のような厳しいご意見は本当に参考になります。

それと、福田白老観光協会会長がおっしゃっていたパートの方々の暮らしというところが、昨日も議員の中から出ていました。パートの方々は失業まではいかないのだけれども、というのは白老町内で雇用されている人は非常に失業していないのです。なぜかという、企業の方々、雇用主の方々が頑張ってくださっているのだと思うのです。だから失業に至っていないというのを、昨日も実際に数字を聞きましてびっくりするほどいません。そこはやはり雇用主の方々が守ってくださっているのですが、守りにも限度がありますので、やはりそこはこれから議会としても町側に要請していかなければいけない部分かと聞かせていただきました。

○委員長（広地紀彰君） それでは、ほかの委員の質疑をお受けします。

貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） 貳又です。本当に本日は貴重なご意見いただきありがとうございます。私からは、1点です。このような厳しい、本当に今までにない未曾有な現状の中で企画や打つ手がなかなか見いだせない状況であると私は感じております。その中で昨日議会がありまして、このコロナウイルスに係る部分で町には約1億円が入って、それに対する経済対策で昨日町から提案されました。それでいくと、例えば商品券ですとか、そういった話がありました。私ども議員としてもそういった町からの提示を受けて、説明を受けるのですが、やはり今、私が一番大事なことは皆さんのお声を聞いて、役場、行政だけではなくて、官民で連携して知恵を絞って、これが本当に効果的な打ち手であるという、そのプロセスを踏んでの提案が一つ大事になってくるのかと思うのです。そうはいっても、私は元役場職員でしたので、今行政担当の職員のご苦労はよく分かるのです。なぜならば、このコロナウイルスが出てから本当に休みを返上して、日々職員は努力をしています。その中で国からは今いろいろな支援策が下りてきても、それをこなすだけで手一杯です。本来であれば現場に足を運んで、皆さんのお話を聞きながらその困りごとを解決する、それを政策として打ち出す、そういった取組が必要なのです。我々議員もお叱りのお言葉を受けましたが、やはりなかなかそういったところできていないところがあります。その中で一つご助言いただきたいのは、そういう仕組みづくりについて、皆さんの意見を聞かせていただいて、それで行政がきちんとそれを受け止めて効果的な政策を打てるよう、その仕組みづくりの何かご提案があればお聞きしたいと思うのです。

○委員長（広地紀彰君） 福田白老観光協会会長。

○白老観光協会会長（福田茂穂君） 貳又委員の今のご意見は本当によいものだと思います。次に打つ手としてという部分ですが、旅行とか、いろいろなお客さんを呼び込むという部分ではやっていくのは間違いないと思うのですが、今一番何が必要とされているのかというと、私たちの業態もそうです。ほかの個人事業主の業態もそうですが、事業者も各スタッフ、従業員、パート、みんな不安と疲弊が重なっています。やはりその部分の精神的なケアみたいな部分です。それをやはり私たち事業主も限度があります。行政がその精神的なケアをして、各パートさんたちが困っていたら窓口があります、みたいな、きちんと聞いてあげられますという、お金ではなく。下手をしたら困って自殺者という人が出てくるのかも分かりません。そういう人たちに心のケアという部分をまずやっていかないと、先がまだ全然見えていないですから。収束してもお客さんが回復する見込み

は見えていません。その中でまだまだじり貧に数字はこの何年間どんどん落ちていく一方だと思っています。廃業する業者もまだまだ増えていくのが目に見えています。それははっきりしています。そんな不安を抱きながらみんな仕事をしているわけですから、その不安を少しでも取り除くための何かしらの対策を講じてもらいたいというのが私の意見です。

○委員長（広地紀彰君） 貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） このコロナウイルスが始まって5月を迎えるわけですがけれども、私は行政批判ということではなくて、昨日も町から提案されたものは、各課長が町の中でのプロジェクトの中で、福祉などいろいろ皆さん現場を持っていますから、そういった課長方がそういった声を聞き取って、そしていろいろな企画を作っています。ただ、やはりこの企画をつくる中で、今福田白老観光協会会長がおっしゃる、本当に今失業した方や、失業しそうな方々、不安を抱えている方々の声というのが、生身の声、痛みの声、それがなかなか届かない、聞けていない現状もあるのかと思うわけです。それとはまた別に、ご商売のことを考えたときに商工会さんからは意見書が出されております。それは町に出されていますから、それに応じて町も考えています。ただ、白老町民の皆さんはいろいろな生活やお仕事のある中ですから、そういった方々の声をきちんと政策として反映できるような仕組みづくりがないものなのかと。例えば過去で言うと、象徴空間活性化推進に関する会議があって、26団体ぐらいの皆さんと、ご商売されている方もそうですし、福祉だとか、そういった子育て団体も集まりながら、今抱えている問題を一堂に会して話し合うような場も以前には町は設けておりました。私としてはそういう場の確保が今後必要になってくるのかと思うのですが、ただ、皆様はいろいろな状況下で時間もなかなか取れないような状況なのかと思うのですが、やはり今大事なことは白老町として総合的にきちんと見て、バランスのよいということなんですが、そういった政策展開が必要なのかと思ひまして、そういう仕組みの部分でのお手を拝借したいと思つての質問でございます。

○委員長（広地紀彰君） 蒲原白老観光協会専務理事。

○白老観光協会専務理事（蒲原亮平君） ご質問ありがとうございます。今の中で聞いて思ったのが、どうしても何か構築するまで実行するまでに期間がかかるということです。それは役場の仕事であつて、議会の仕事で、しっかり決めながら進める以上しようがないとは思っていますが、こういう非常事態の面において、やはりそこは必ず足かせになってきていると思うのです。できる、できないとかについて私は分かりませんので、勝手なことを言いますけれどもよろしいですか。例えばこういうときのために自由に使えるお金を、今お金がないのも分かりますけれども、ある一定分確保して、そこをつかさどる方、そんなに何人もいないと思うのです。本当に独立遊軍みたいな機関と資金を確保しておく。それはいろいろなプロセスとか、いろいろな会議とかの全部の段階を踏まなくても、ある一定の許可が下りれば使えるという、例えば町長の許可だとか、議長の許可があれば使えるというような形のものをできればいいかと。あと、いろいろな方からの意見を上げるといふのも、例えば前は白老町商工会を呼んで、今回は我々が来て、それをまとめていただいて上げていただいていると思うのです。それにしても政策を決めて実行して効果が出るまで結構な時間がかかるものですね。それはもうこの機関ならではですからしようがないとは思っていますが、それ

を今、これだけスマホも普及していますので、例えば何か一つクラウド上のところにネット上の目安箱みたいなものを設けて、今困っていることとか、こういう分野別にして、それをチェックする人を1人か2人置いておく。そうしたらリアルタイムの情報がどんどん入ってくるのです。ですから、いろいろな手はず、団体だったらなおさら、会員にファックスを流す、ファックスの返答期限をもって、それをまとめてこういう場で流すとしたら1か月、2か月かかるのです。そうしたらこのときに事業者とか、町民が思っていることには全くタイムラグがありすぎて、今のマスクの話ではないですが、あのような物が今送られてきても何の役にも立たないみたいな話にもなってきたかねないので、そういう何か本当にスピード感を持っていける独立遊軍みたいなものがあればいいかと思っています。そこをつかさどる人はものすごいプレッシャーがあり批判を浴びると思いますが、それは仕事なので割り切ってやっていただくしかないみたいな感じでは思っています。すみません、身勝手な意見ですが、以上です。

○委員長（広地紀彰君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前10時56分

---

再開 午前11時08分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

それでは、続けて質疑をお受けします。質疑のある方はどうぞ。

西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 先ほど少し蒲原白老観光協会専務理事がおっしゃっていたのですが、スピーディーにやってほしいというお話がありました。実は私もこの間からそういうことを考えている方から、役場の中に組織にそういうスピーディーに進める組織をつくったらどうですかと言われたのです。今の体制でいったら厳しいだろうと思いました。ここ何年か特別な審議会みたいな形で大学の先生とか、それとか知見者の方、町民の方、そういう方も含めて、だけどトップになる人はかなりこういうことに精通した方をどなたか1人を選んで、その方が町長のブレインみたいな形になって、そしてこういう問題をスピーディーにさばいていったらどうですか、そういう組織を提案してはいかがですかと言われていたのです。私もそれはよいことだと漠然と思っていたのですが、今そんな話が少し出たものですから、申し訳ないのですけれども、どのような感じでしょうか。私は必要なかどうなのかというのは現場にいる皆さん方が一番理解していて、今の組織でもスピーディーにやってくればよいというのならそれでよいのですが、そうではないと思います。コロナウイルスに関しては当分の間、即座に対応してくれるような別組織をきちんと行政としても考えてほしいというお考えがあるかどうか、その辺をお伺いしてみたいと思うのです。

○委員長（広地紀彰君） 蒲原白老観光協会専務理事。

○白老観光協会専務理事（蒲原亮平君） 西田委員ありがとうございます。私も先ほど言ったように、それは必要だと思っています。今後いつ何が起こるか分からないもので、今回はコロナウイルス、例えば12年のときには災害や、いろいろな災害とか、非常事態が起きるので、毎年毎年、常にその部隊をずっと置いておいていただきたい。そこで何も起きなかつたら多分、使わないものだと

思うのです。その余った予算は繰り越すのか基金にいくのか分からないのですが。常に置いておいていただきたい。それが多分、町民とか、事業者の最初の助けてという手がかりになっていくと思うのです。それはやはり必要かと思えます。

○委員長（広地紀彰君） 上村白老観光協会副会長。

○白老観光協会副会長（上村篤正君） 難しいですね。いろいろな委員会とかあると思うのですが、スピーディーに動くといったときの、私が外部から見た目としては、責任の所在がよく分からなくて、何かしようとしてもそこで足かせになっている、非常にその辺があると思うのです。その辺をクリアにした形で何かそういう組織が出来上がってくれるのであればよいです。誰が責任を取るのかということも明確にして、だからといってその人に対してどこまでの責任を与えるのかということまでしっかりと踏み込んだ上でいろいろな権限で動いてもらうということを前提にしたほうがよいと考えます。

○委員長（広地紀彰君） 及川保委員。

○委員（及川 保君） 及川です。今日はお忙しいところありがとうございました。今、冒頭からいろいろな厳しいご意見を含めて、また建設的なご意見をいただいたことにまずお礼を申し上げたいと思います。我がまちの、例えば今、上村白老観光協会副会長がおっしゃっていた1次産業ですね。蒲原白老観光協会専務理事もそうです。非常に厳しい状況であり、和牛でいえば、かなりの長い期間、もう3年か4年くらいはよい状況がずっと続いていた状況だったのです。そういう状況の中で今回のコロナウイルスの関係で非常に厳しい値崩れというか、かなり下落しているという状況が今分かりました。休憩中にも申し上げたのですが、テイクアウトのお弁当は非常においしくいただきました。これは価格と合うのかという思いがあったのですが、ぜひこういうものもこれから何とか頑張って踏ん張っていただきたいと思います。水産業も最近は非常に厳しい状況です。そういう中で加工業を含めて頑張っておられる状況です。今、このコロナウイルスの関係で大きな打撃を受けているのは観光業で、それから宿泊、飲食店を含めた、非常に厳しい状況であります。私たちは3月31日に、一部の議員なのですが、既にまちに対して、これとこれをやってくださいという要望書を出しています。あれからもう2か月なのです。それが今、全町の中小を含めた事業主は本当に厳しい状況にあります。昨日の状況でも、札幌市の老舗の第一ホテルですか、店を閉めるという報道がありました。それも破産する前に閉めるということです。きちんと皆さんに退職金も払える状況の中で閉めたいという社長のそういう思いが何か伝わってくるのです。これはやはり我がまちもそういった状況にもうなりつつあるということについて、役場職員を含めて、我々議会も含めて思いをしっかりと実現していかなければいけないのです。我々は様々な大きく3点ほどの要望を出しているのです。飲食業、宿泊業といえれば固定費がかなりかかります。もう役場が自前で、昨日先ほど貳又委員が話していたように本会議ではないのですが、全員協議会の中で夕方までそれこそいろいろと議論しました。まちは今ずっとやっているのは国の対策待ちなのです。これはやはり違うでしょう。今、非常時でしょうと。確かにウポポイが何か悪の存在になっていますが、これは白老だけではないのです。世界の問題なのです。今やらなければならないのは、我がまちが何をやるかなのです。国の状況を待っているような状況なものだから、結局は1か月、2か月、3か月と遅れ

ていくのです。その間に倒れるところが出てきたらどうするのですか。私はそういう思いがあるものだから、もう3月の時点でみんな危機感を持っているのです。実はウポポイの延期も私たちが要望書を提出したのです。今そういう福田白老観光協会会長の批判といたしますか、しっかり受け止めました。全くそのとおりでと思います。ただし、来られたときに感染の危険性というのは非常に高いではないですか。このときに町長以下、大変な状況になるのです。その辺りを含めてやはりしっかりと、これはどちらの意見が正しいかとならないと思うのです。ですから、今やらなければいけないということがまずありまして、具体的に福田白老観光協会会長がおっしゃっていた入湯税の話がありました。これはやはりやりましょう。だからそういったことが商工会からも実は出ているのです。まちに対する、議会に対する要望です。それというのは、まちは今、先ほど見ていたのですが、下のほうの8つある要望の中の一番あまり影響のないような、国の支援を受けられるような、その対策しかやっていないのです。肝心の、商工会から要望が出されている大きな問題ですが、公共料金の支払いの猶予、減免をしてくださいと。それから国民健康保険税、固定資産税等の支払いの猶予減免をしてくださいと。何とか頼みますと。これが商工会の出されている、あとは飲食業向けの家賃の補助、これも大きな問題だと思っているのです。いろいろあるのだけれども、ここで聞きしたいのは入湯税、これをしっかりと活用しようではないですか。今の状況を見たときに。ホテル業、白老はホテルといえば温泉ですから。そういう状況からすると、具体的にそういったものを何とか実現していけるような対策を議会も一緒にやっていきたいと思っています。それから1次産業の部分もそうです。基幹産業としては白老にはなくてはならない産業なのです。畜産業、漁業も全くそのとおりです。だから、その辺りを含めて、絡めて何とか、具体的に議会として、観光協会から出されている意見を議会が町長に対してこうしてくださいと訴えたいのです。私たちは何の予算権も持っていません。一銭も予算権がないのです。権限は何もありません。やってくださいという要望しかないのです。そういうことを含めて、ぜひこの今回の委員会の中で実現するように頑張りたいと思っています。入湯税のことで福田白老観光協会会長から具体的にもう少しこうしてほしいというものがあればお聞きしたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 福田白老観光協会会長。

○白老観光協会会長（福田茂穂君） 及川委員ありがとうございました。本当に前向きに考えていただいているということは3月の時点でそういう要望書を上げていただいているということは本当に感謝します。ありがとうございます。やはり入湯税というのは、各虎杖浜、竹浦連合の中では、10施設あるホテルの中でも大きいお金になってくると思うのです。ホテルいずみにしても、月数十万円のお金になってきます。それが年間を通したらという、その年間の部分を税金の猶予をしてくださいとか、そういう部分ではないですが、本当に収束する部分までとか、何十万円でも本当にありがたいお金だと思っています。それはこの場を通して、そこはスピーディーに動いてもらえたらありがたいと思っています。あとは水道料金もそうです。水道料金もかなり大きくなります。それは多分、海の別邸ふる川も、虎杖浜温泉ホテルも、そのことに関してはちょっと聞きましたが、町には話は通しているのだろうと思いますけれども、そういう部分でそういうお金こそが今、私たちが何とか助けを求めている声だということを知っていただければありがたいです。それでやはり

来年を見たときに虎杖浜、竹浦の温泉がなくなっていると、そうしたときに白老の財政はどうなっていくのだということを考えていただきたいのです。右を向いたら何もないと、財政の部分で入ってくる分です。本当に危機的な状況になっているということだけは現実ですので、そこは本当に危機感を持って皆さんに対処していただければありがたいです。

○委員長（広地紀彰君） 及川保委員。

○委員（及川 保君） 及川です。状況は分かりました。私たちのこの委員会が、本当は委員長に私申し上げているのは、これは全体でやりましょう、要するに 14 人いる議員が全体でやりましょう、そして一体化しましょうというような話も申し上げているのです。これは今、後からの話になるのですが、今のお話は分かりました。どうしても先ほどスピーディーにという貳又委員、それから西田委員からもあったのですが、本当に遅いのです。もう 2 か月です。要望をきちんと出したのは 3 月 31 日ですから。それが全く手つかずの状況の中で、何も難しいことはありません。このコロナウイルスが一定の収束する、北海道知事が緊急事態宣言を解除するとか、国が緊急事態宣言を解除するとか、そういった時点とかいろいろその範囲はあるのですが、何もずっとやってくださいといっているわけではないです。水道料金の減免ではなくて、我々が言っているのは免除してくださいと。それから固定資産税の免除をしてくださいと。それから家賃の補助をきちんとしてくださいと、こういう申し入れをしているのですが、全くゼロ回答なものですから、何とかこの議会の中で、やはり議会の意見が一致しなければ駄目なのです。まちは全然動いてくれません。この 7 人の委員がいくら頑張っても多分、無理でしょう。そうであるものだから委員長にはそういう話も全体でやらなければいけないという話もしているのです。そういう中でぜひ、皆さんのこういった意見もしっかり受け止めて実現が早くできるような対策を打っていきたいと思っています。冒頭の厳しいお話もありましたけれども、頑張ってまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） ただいま、白老観光協会各位といろいろと話を交わしていた内容につきましては、この後、ご退席いただいた後に委員間で討論しまして、委員会意見としてまとめていきたいと思っています。その中では、ここには 7 名、約半分の議員が集っています。全ての会派からの代表も集っています。ですので、会派の垣根を越えて全員で一致していくのは私たち常任委員会の責任として訴えてまいります。今のような質疑が真剣に各委員から交わされていますが、決してそれを無駄にすることがないように、私たちの持てる力は発揮してまいりたいと思いますので、どうぞ忌憚ない部分で、どうぞそのような質疑をこれからも交わしていただきたいと思います。

長谷川かおり委員。

○委員（長谷川かおり君） 長谷川です。先ほど福田白老観光協会会長から、パートさん、40 人がいらっしゃって、安平町へ 10 人単位で仕事をしに行ったという、まだ白老町はそういう仕組みはないのですが、私はそういうパートで雇用は切られてはいないけれども、やはり収入が少なく、これから農繁期が始まってくると町内でも作物の収穫が忙しくなってきたらそういう人手のときにちょっと手伝ってくださいとか、そういうことでうまくシェアしていけるような、そういう仕組みづくりも私は町内で大事かと思っています。町内でなかったら胆振管内とか。そういうのをしっかりと仕組みづくりをしていく必要があるかと思っています。先ほども蒲原白老観光協会専務理事からあった、

パートの方は仕事が今休みだということですが、これから加工場に関わる方も、もし仕事が無かったらそういうことも必要になってくるでしょうから、そういう意見を聞きながらまた議会としても仕組みづくりというのをしっかり提案していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。また意見ありましたらよろしく願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 森哲也副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 森です。本日はお忙しい中、お時間をつくっていただきありがとうございました。入湯税の要望のお話ですが、及川委員の質問ですので私たちが頑張っていこうと思うところでもあります。せつかくの場なので、忌憚のない話をできればと思います。あくまでも会派としてではなく議員個人としての考えです。やはり国と町にはスピード感は欠けているという部分というのは今日お話ができて実感できたところでもあります。私はこれから地域経済の大事なことに、行政は直接関係ないかもしれませんが、国からの10万円を給付されたら、それを生活困窮対策と捉える方もいると思いますし、地域経済の活性化のためにと考えられる方もいますし、やはりそのお金がどう回っていくのかというのが私は大事なのかと、思っているところでもあります。それで感染症対策にしましても、白老町において現時点ではゼロ人ということでありまして、白老町の中で人が動く分においては比較的まだ感染症対策としてもまだ安全なほうなのかと、思っているところでもあります。その中で10万円が給付された後の行政、国ではなくて、私たち一町民としての動きというのも大事になってくるのかというところでもあります。町内に対してのPRというのが大事になってくるのかと、思っています。今日お話を伺うとやはりなかなか今PRしづらい状況もあるというお話をいただきまして、その雰囲気を出させていくのが我々も一町民として、議員として重要になってくるのかと、思っているところでもあります。そのPRのしづらい雰囲気を具体的にその部分をお伺いできればと、思っております。

○委員長（広地紀彰君） 先に進んでいくといった部分、上村白老観光協会副会長からもご指摘をいただいたところですが、それを具体的に何か、もしこうしたらどうだろうかというものがあればお受けをしたいのですが。白老観光協会から何かお考えはありますか。

上村白老観光協会副会長。

○白老観光協会副会長（上村篤正君） 本当に雰囲気が大事だと先ほど私も話をしたとおりののですが、そこをどのようにしてというところが難しいのです。先ほどもちょっと休憩中にいろいろな話がありました。やはり前向きな意見のところの方が旗印をつくるということを少し考えたほうがいいのかと。旗を上げるという。その旗を上げるときのタイミングと、旗の上げ方、それから旗を上げる人、その旗を上げる人のある程度の責任と権限、ある程度そういったところを持って一つつくっていくということです。それが誰かというのは私もよく分かりませんが、そういう形をもって前へ行く。それと先ほど少し話をしたのですが、やはり白老町は白老牛が基幹産業であると、大変嬉しい話なのですが、現実的な話をすると、私個人的には白老町の基幹産業にはなっていないと考えています。ただ牛肉を出荷しているだけなのです。そこで経済活動をしているだけなので、ほとんどそんなにいうほど町内においては動いていないのです。結構そういうことというのはあると思うのです。レストランをやっているのですが、どうやって白老町の農産物を町内で消費させて、我々

ではない違う飲食店の方、もしくはお宿さんなどにも使っていただけるような、何かそういう雰囲気をつくり出して、その中でしっかりと旗印の下で活性化をしていって、いわゆる正義をつくって前へ出していくというやり方を具体的にしていってというのがいいかと私は思うのです。

○委員長（広地紀彰君） 森哲也副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 生活困窮対策を取られる方もいるので難しい部分等はあるとは思いますが、本当に貯蓄に回るとというのが一番対策にならない部分が出てくると思います。やはりPRして発信していくことは重要だと思うので、私は町内喚起を促すためにPRをしていく必要があると思います。この後、委員会として討議をしますので、まだあくまでも個人的な意見なのですが。

それで、あともう1点聞きたいのが、先ほど千葉白老観光協会事務局長のネット販売で10万円ぐらいの売上げがあったということなのですが、ネット販売を始められたのは最近ですから、前年比等の比較等はできないと思うのですが、町内の事業所でもネット販売をしているところはあると思うのですが、そのネット販売の売上げの上限をもし把握していたらそういうところの状況も聞きたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 千葉白老観光協会事務局長。

○白老観光協会事務局長（千葉勝宏君） まず、白老ねっとと商店についてなのですが、それは以前からも元々やっていたところだったのです。なおかつそれプラス観光商業ゾーンで販売しようとしている商品をアップしているというのが4月からの取組で、現在100点ほどあります。その以前には、昔からのいろいろな物をアップしていたところがございます。先ほどご紹介したのは、新しく商品を上げた部分の売上げとして約10万円程度ありましたということをお話させていただきました。それから町内の協会の会員の方々といろいろとネット商店等をされているというところがございます。実際のところ把握はしておりません。ただ、いろいろと皆さんがされているというのは常時把握をさせていただいておまして、例えば旧白老観光協会前にありますお菓子屋というのですか、そちらではいろいろなハンバーグだとか、そういった詰め合わせのもの、そして自分の店のスイートポテトとかと一緒に詰め合わせをして1万円とか、8,000円の価格を出してという、蒲原白老観光協会専務理事のお店のタラコとかも入ってとか、そういったものの詰め合わせのセットを、ネットを通じて販売をしてすごく売上げを上げているというお話も聞いております。そういった部分で本来、白老観光協会がそういったことを担ってやっていければいいのかとは思ってはいるのですが、そういった通信販売というものも充実できればよいとは考えております。

○委員長（広地紀彰君） 上村白老観光協会副会長。

○白老観光協会副会長（上村篤正君） ネット販売は、我々のところも結構、高島屋さんとか、伊勢丹さんから話があります。やはり来るのですが、現実的な話をすると、非常に手間がかかってコスト的に負担なのです。では何が一番売れているのかというと、今北海道のほうでやっている、どさんこなんとかで、送料無料、20%オフでその差額を北海道が負担するというものです。それが売れているのです。ところがそうではないものについて、全うな値段で出しているものはなかなか売れづらいのです。要は安くなければ売れないということなのです。だから、結局はそこに特化していくとどんどん自分たちの物の評価を下げていくということになるのです。いつかはいいので

す。この1か月、2か月はいいかもしれませんが。それをずっと続けるということになると、会社としておそらく成り立たないだろうと思います。やはり私はできるだけこの白老町内に入ってもらって、そこでお金を落とすという、それを密にならないような状態の何かしらのそういったイベントなり何なりを開催するという事です。イベントというと集まるようなイメージがあるのですが、そうではないやり方があると思うのです。それが、いわゆる通信販売みたいな形で、ばらばらと来てくださいというような、そういう何かがあると私は非常に面白いのではないかと思います。

○委員長（広地紀彰君） 貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） 一つ政策的な可能性なのですが、今、全国的な事例を見ると、宅配サービスのウーバーイーツの需要がかなり伸びているというところで、私の知り得るところでいくと、ある道の駅は観光客も相手にするのですが、やはりそんなに大きな自治体ではないものですから、町民の生活支援もするような道の駅があります。そこにコンビニエンスストアがあり、その道の駅が今、町からの指定管理を受けているところなのですが、宅配サービスを手がけているというところがあります。今、実際に商工会さんもホームページ上でデリバリーの関係を行います、私の母が70代なのですが、応援したいけれど、そこまで買いに行くのが大変だと言います。これはやはり私の母だけではなくて、高齢の皆さんは飲食店まで行くのはなかなか大変なのかと思います。町内では出前をしているところもあります。そこで一つの政策提言なのですが、昨日議会に説明があったように、今、国から町に1億円が入って、それで経済対策としての支援策として商品券とかいろいろあるわけです。その中で、例えば車もリースで確保して、人も今仕事がないような方々もいらっしゃると思いますから、そういうチームを作って、その部分のお金は国からのお金を確保しますというものです。ただ、その要はオペレーション、窓口をするというのがなかなか民間企業はできないものですから、それを公共性の持ち得ている観光協会さん、今日は白老観光協会の方がいらっしゃるので、商工会も可能性があるのかと思いますが、そういう政策提言はいかがでしょうか。

○委員長（広地紀彰君） 福田白老観光協会会長。

○白老観光協会会長（福田茂穂君） 貳又委員の今の政策の部分では、多分、白老観光協会が今それをすると方向性をまた転換して、また違う方向性も見いだしてということにシフトしていかなければいけないかというところでは、ちょっとまだ私たちは即答ができないと思うのです。ただ、その中でいろいろなことにチャレンジしていくことは必要だし、白老観光協会もそうですけれども、今何の仕事もなく待機している人がいます。そういう人たちにどういうことを担ってもらおうのかという部分では、サービスに関してはまだそこまでの教育ができていないということなどがあります。駐車場の誘導員とか、そういう人たちにサービスを急にやってくださいといっても無理でしょうから、そういう交付金でできるようなことがあったら、仕事のない人たちに振り分けて私たちの協会でもできるのでしたら、そこは検討してみたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 上村白老観光協会副会長。

○白老観光協会副会長（上村篤正君） 私はよくいろいろなイベントの中で補助金を使うのは非常によいことだと思うのです。すごくよい案だと思うのですが、ただ、それを使って何か1,000円のもの800円にしますとか、500円にしますといっても、先ほどの話ではないのですが、評価を落と

して、結果論からすると自分たちがいずれ苦しくなっていくのです。それがずっと恒久的にその事業が成り立つかという、成り立ちづらくなっていくのです。私はどちらかという、そういったものについては、やはり何か我々が事業をするとなると宣伝広報をしなければいけないのです。そこに費用がかかるのです。費用がかかるのですが、それが失敗したら全部損をすると思うから事業者もなかなかやりづらいという部分があるのです。ですから何かいろいろなこれから事業を行うときについても、しっかりとした宣伝広報の部分をもって、そこで一旦お客さんを来させることができれば、そこで事業者各自が非常に努力しますので、そこからリピーターをいかにつくっていくかということはやろうと思うのです。そうしていくとその事業そのものはそのまま流れていくと思うのです。ですから、本当のスタートになるのは、私はまずは広告だと思うのです。いかに広告をしっかりとするかなのです。それで先ほどの旗印をつくってという部分でやっていくと非常によいのではないかと思います。

○委員長（広地紀彰君） 久保一美委員。

○委員（久保一美君） 久保です。昨日全員協議会の中でコロナウイルス対策に対しての給付金の話でいろいろ夕方までみんなで議論したことがありました。その中で小規模事業者等経営支援事業という部分があります。これはどんな業種の皆様にも共通する部分だと思って、ちょっと気がかりだったのが、この中の事業内容に入っているものは給付金のことに対することだけをうたっていて、コロナウイルスというのは目に見えないものですし、今北海道は第2波が来て、ちょっと落ち着きかかっているかもしれませんが、第3波が来るかもしれないとか、ある程度皆さんはスパッと終わることはないだろうというのを予測しているとは思いますが。その中で私は飲食業でスナックをしているのですが、その場合は休業要請を出されると、ただ休むしかないのです。食べ物を扱っているところは、例えば時短営業をしたり、テイクアウトをしたり、ネット販売をしたりでいろいろ駆使する手段はあるのです。ただ、長期化した場合では国で決めたある一定の数値が下がって営業してもいいです、でもまだ安心できませんとなったときの、コロナウイルス対策の100%安心ではないのですが、まちでできることといえば一定のルールづくりだとか、町が指導できる部分だとか、そういう部分で早く普通の営業もできるような形を整えていかなければならない部分もここでうたってほしいという意味で昨日提案させてもらったのです。ちょっと論点がぼやけているのですが、飲食店もアルコールを取り扱う店も全ていろいろな手段があってもなくても店頭販売もある程度必要だと思って、これからある程度のルールづくりだとか、そういうのも必要かと思っていたのです。皆さん方はそういう部分に対しての考えはどのように思っているかお聞きしたいのです。

○委員長（広地紀彰君） 福田白老観光協会会長。

○白老観光協会会長（福田茂穂君） 今回のルールづくりとかの部分では、ちょっと話はそれるのですが、持続化給付金とか、雇用調整助成金のお金ですとか、その手続きがあまりにも複雑すぎて、もらえるのだろうけども個人事業主の年配の人たちにはまず不可能だろうと感じています。本当にそこは行政で手取り足取りきちんと教えないと、もらえるものももらえません。そういうことをきちんと行政で、町も議会もそうですけれども、向かっていかないと、本当にもらわなければいけない必要なお金をもらえなくしてしまうというのが現状ではないかと思います。ただ、私たちホテル

のきちんとした経理担当者に頼んでもあまりにも難しすぎて面倒だと言います。ハローワークへ行ってもまた戻って来なければいけません。その何回の繰り返しだということを言っています。それをもっと簡素化したものにしてもらいたいという部分があり、定款がなければ駄目だとかいろいろなことを言われます。現実として定款が個人のところであるのでしょうか。そういう部分できちんとした国の政策をもっと簡略したものを出してもらって、すぐ手続きができるというような方向にきちんとやってもらえないかということは私たちの願いです。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員はよろしいですか。

それでは、白老観光協会から何か最後に要望事項等も含めて、言い漏れから要望事項等、何かあればお受けします。

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時47分

---

再開 午前11時53分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

結びに、今日は貴重なお時間を割いて今回参考人としてお越しいただきました白老観光協会の皆様にまとめと謝辞も含めまして、森副委員長からご挨拶申し上げます。

森哲也副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 本日はお忙しい中、時間をつくっていただきありがとうございます。本来であれば、現在ウポポイが開設して間もなく1か月になるという、そのような状況でありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響でウポポイ開設が延期となっておりますが、どんなに深い夜でも朝日は必ず昇るという言葉があります。私たち一人一人が、この問題が早期に収束してウポポイが開設し、来場者がまたこのまちに多くあふれることを切に願っているところであります。本日はこのような状況下であります。皆様方の活動状況や課題や今後の展望などをお聞かせいただきありがとうございます。私たち議員一人一人、会派は違いますが、町民の困難に立ち向かうという思いは一致していると私は思っております。ですので、今後委員会で意見をまとめ、一枚岩になり、しっかりと町のほうに伝えていきたいと思っております。本日は本当に貴重なご意見を聞かせていただきありがとうございます。

○委員長（広地紀彰君） それでは、これをもちまして白老観光協会の皆様からの参考人としてのご意見の聴取を終わりたいと思います。今日は本当に貴重な機会をいただきましてありがとうございました。

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時55分

---

再開 午後11時59分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

今後の進め方について、休憩後、白老商業振興会からいただいた意見ももう一回振り返りました

上で、今日の白老観光協会さんの話も踏まえた、皆様からの意見をお受けしたいと思います。それが終わりましたら、それで基本的には正副委員長でまとめて皆様にお諮りするという流れになっているのですが、前々回から今回は強く訴えていく必要があるのではないかという意見をいただきました。そこで提案なのですが、まとめを各委員からご意見をいただいた上で、委員会として重点的にこれは強く訴えていくべきではないかといった、その重点についての意見も伺いたいと思います。そういった形で、なるべく強く簡潔に訴えていけるような中身にしていきたいと思いますので、そのような進め方でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） では、そのような形を午後から進めてまいりたいと思うのでよろしくお願ひします。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 0時00分

---

再開 午後 1時00分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて所管事務調査を再開いたします。

それでは、所管事務調査のまとめのために、各委員からの意見を伺いたいと思います。

資料を参照してください。まず、白老商業振興会の現状と課題、要望については、今、事務局で取りまとめをさせていただいている書類がございます。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時01分

---

再開 午後 1時05分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

それでは、本日の所管事務調査及び先日開催した白老商業振興会の話で、この町内の実態を把握されたかと存じます。そのことを踏まえ、委員会の委員の取りまとめについて進めてまいります。白老商業振興会については今、御覧いただいたとおりです。また、白老観光協会は先ほど終了したとおりですが、まず事業の厳しい影響について、あとは入湯税の関係、パートへの影響や1次産業への影響、また催事の中止や商品価値のことや、給付金を受ける際のサポートについてのお話もあり、またその中での白老観光協会の取組や先を見据えてというご意見も白老観光協会さんからは賜っているところです。こういった基本的な部分を踏まえたご意見をいただきたいのですが、まずこのまとめに向けての基本的な押さえとして、国や北海道の施策について私たち委員会で意見をすることはできません。あくまで町に対して意見を伝える範囲でお願いいたします。あとは業種によって影響が様々に異なりますので、今、白老商業振興会さんや白老観光協会さんからいただいた具体的な現状把握や分析の上でご意見を賜りたいと思います。そのほか、まちでできることは様々な部分、国でできることや北海道でできることと、またまちでできることは異なります。そういった部分を踏まえた白老町に対しての委員会の意見をまとめていきたいと思いますので、趣旨を踏まえた

ご発言をお願いします。では、意見を伺ってまいります。意見のある方はどうぞ。

及川保委員。

○委員（及川 保君） 及川です。2日間にわたっての参考人招致の所管事務調査でした。これは委員長、この2つは分けるのですか。この全体意見が出たものを一本化して、当然そういう形になると思うのです。私はそのほうがいいと思います。一本化して、今回の白老商業振興会の関係、それから白老観光協会の関係、これは大体皆さんがおっしゃっていることは大体似ているのです。まさにしっかり要望しなければいけないということはもうほぼ見えてきています。というのは、具体的にはっきりと固定費が皆さん非常に負担になっている現状なのです。緊急の対策としては、固定費の例えば水道料金を免除してくださいとか、先ほど出た固定資産税も含めて入湯税の部分で、しっかりと入湯税を活用する対策をしてくださいということでした。これはホテル、旅館業の宿泊業の皆さんの部分です。これはほかの全体の中に入湯税を使うというのは、またこれがどうなのかという部分があるものですから、そこは入湯税の部分は宿泊業です。もう一方では飲食業、それから様々な観光業があります。この部分については、例えば固定資産税だとか、水道料金だとか、いろいろ具体的にあるはずなのです。これは、私たちが3月31日に3人の議員でまさに要望した部分では水道料金と固定資産税の免除、ある一定期間の部分免除してくださいという部分だったのですが、これもゼロ回答でありました。いまだ解決に至っていないのだけれども、商工会の要望もあるのではないですか。この部分も、昨日の段階でも何点か該当している部分があるのです。その辺りの部分を含めて、個別のしっかり対策を求めなければ、やはりだらだらとしてしまい、いろいろな部分を網羅してやってもらうとしても、なかなか難しいと思うのです。そういう部分では、私が今申し上げた具体的な対策を、固定費の部分をしっかり支援してくださいと。それも緊急を要するという部分でぜひ入れていただきたいと。それともう一方は、休業している部分が、先ほど白老観光協会にありました。パートの皆さん、せっかく雇用してもウポポイの開業が全く見えてこないという部分があるものだから、その雇用の面の支援の仕方です。これは皆さんと議論したいと思っているのですが、どういう方法があるかと。具体的にはこういうことなのです。これは、国がどうのこうのではなくて、国の支援策を待つのではなくて、まちが独自の支援策を考えてくださいと。考えてくださいというのは今、具体的に求めるけれども、こういったそのことをしっかりとしてくださいということをこの委員会で求めていったほうが私はよいのではないかと思うのです。皆さんの考えを含めてお聞きしたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 2団体からの聞き取りを基にした形として、固定費に対する配慮が必要ではないかというものです。これに対しての緊急性も求めるということです。そしてパートや雇用の支援をすべきといった部分ですね。今回、2団体で、迅速に私たちの訴えを届けていこうという中で簡潔に進めていきたいと今回は思っています。

では、ほかの委員からも、今の点に関わってでも、その他でも構いません。

久保一美委員。

○委員（久保一美君） 先日、来ていただいてテイクアウトの話がありました。そのときの配達料金について、お客さんとお店とまちで分担したらどうかという話はすぐに決められるのではないか

と思います。これは早急に決めて実行したほうが、即効性があるのではないかと思います。

○委員長（広地紀彰君） テイクアウトも商業振興会から、テイクアウトをしたときの配達料金の負担についての話ですね。

暫時休憩します。

休憩 午後 1時14分

---

再開 午後 1時28分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

今、及川、久保両委員からご意見を賜りました。ほかの委員からの意見をお受けいたします。

西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 私からは、宣伝広告と、それから誰かが旗印になるべきだという意見が非常に貴重な意見かと思いました。特に誰かが旗印になるべきだというのは、やはり自粛、自粛という中で、皆さんの心の中では自粛が解けたからといっても、コロナウイルスが怖いからある程度緊張感を持って、それなりの自粛をしなければいけないという気持ちが抜けないと思うのです。そのところの中で白老町の産業を活性化するためには誰かが旗印になって、白老に来て泊まっていてください、食べて行ってください、楽しんで行ってくださいということを行う旗印が欲しいと。それに対して誰が責任を持つのかということになってくると、やはり白老町の代表である町長だろうということをおっしゃっていたのかと私はそう受け止めました。やはりそういうことをきちんとやっていく。そしてそのためのそれぞれの企業がやっていくグループ。個人の企業ではないです。団体でやっていく事業に対して宣伝費、広告費というものを町として負担してあげる。それによってまちの活性化、そこは町長が、白老町が全面的にバックに立つということで押していくという、そういう力強い姿勢を町として示すべきだろうと私は思います。それが1点です。

2点目が、産業中分類のD I 調査をするということです。これは、それぞれの事業の状況調査なのです。これは日経平均だとか、よく単価とかやっていますけれども、そういうものの景気動向なのですけれども、コロナウイルスに対するこの景気動向というのは、これから先、3年もかかるのではないかという話もあるくらい長引くだろうといわれる中で、白老町の自分たちのまちの景気状況というものをしっかり把握してもらうためには、調査をするべきだろうと思います。このD I 調査の仕方というのは、きちんとプログラムがありますので、そして銀行とか、金融機関、信用組合、信用金庫とか、そういうところは皆さん調査しているのです。そうではなくて町がする調査というのは細かく業種ごとに、産業ごとにきちんと調査していくべきだろうと思いますので、調査を早急に白老町としてすべきで、そのためのアンケート調査を含めて、業者に対して行うべきだろうと思います。以上、2点をぜひやっていただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） ただいま西田委員から意見をいただきました。やはりまちのトップである町長が旗印となり、宣伝広告の支援、そして活性化をつくり出していくべきだという、再活性化といったような視点からのご意見だと承ります。また、D I 調査ということで、産業別の状況の実態調査、これからのさらなる支援が必要になってくると思われますので、そういった部分には実態

把握が大事だろうといった趣旨かと思いますが、この点についてはよろしいですか。

及川保委員。

○委員（及川 保君） 基本的には私は今の西田委員のご意見には全くそのとおりだと思います。問題なのは、みらいの貳又委員が議員として本会議の中でも町側に申し上げている部分は、まちがそういった様々な経済状況を押さえているのかといたら、全くそれがゼロに等しいという状況が現実にあるのです。そこには商工会に丸投げする、願います、それで状況を把握するというような、これは非常に問題だと思います。やはり自分たちが切実にそういう今の状況がつかめていないということが現状にあると思うのです。商工会にお任せする部分は、それはそれでいいと思うのだけれども、これはしようがない部分ですから。ただ、やはり職員として、課長以下はまちの状況を押さえていなければいけないはずなのです。それが議会の我々に対する答弁となって、実はこういうことなのだと、こういう実情だからこれできないとか、できるとかという話になると思うのです。だからそこ辺りが今、西田委員がおっしゃったことだと思うのです。いつもこの辺りでうちの会派では議論になっているのです。

○委員長（広地紀彰君） 西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 及川委員が今おっしゃった、そのとおりだと思います。商工会でこれ分かっているのが鴻野課長だけです。白老町でも役場職員の中でこのD I 調査のことに細かいことまで分かっている人はまず少ないのです。やはり経済的な専門性の持っている方というのは非常に少ない中で今回は、どこまで調べていいのか役場自体も理解できていないのだと思うのです。ですから今回これをぜひ導入してやっていただくことによって、今後の白老町の発展のためには必要なのではないかと思います。

○委員長（広地紀彰君） 白老町は特にウポポイの開設が延期となっている部分も、ほかのまちとは違う影響が生まれつつあるので、町がきちんと把握をしていくといったことは、北海道や国の調査とは意味の違うものがありますので、そういった観点から見ても西田委員の指摘や、及川委員のお話も伺いましたが、必要なことだと思いますので、これを取り上げていくということでよろしいですか。

ほかに質疑のある方はどうぞ。

森哲也副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 森です。皆さんにお伺いしたいのが、先ほども質問させてもらったのですが、白老商業振興会の現状と課題について、要望の下から2段目にも書いているのですが、給付金が手元に届いたら白老のまちに出かけて欲しい。町にお金が回る仕組みの支援を願いたいというところで、給付金という言葉は使ってしまったらあまりよくないことだと思うのですけれども、給付金はなるべく地元に戻ったほうがいいのかという考えがあるもので、そこで町としてのPRの仕方というのはどのようにあるべきなのかということです。

○委員長（広地紀彰君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時37分

再開 午後 1時42分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

それでは、森副委員長からのご意見につきましては、町内経済循環を活性化させるために広報の利活用も含めた宣伝広告に対しての支援を行い、再活性化をつくり出していくべきだというような趣旨でまとめさせていただきたいと思います。

それでは、ほかの委員いかがですか。

貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） 今日の白老観光協会さんとのいろいろな問題の中で、町内に今回のコロナウイルスに係る住民の生活支援、経済支援も含めて、そこを統括するセクションというのですか、そういったものがやはり大事だというのが私は思っています。昨日の全員協議会でも、例えばマスクの関係は各課から出てきました。健康福祉課などで出てきていますけれども、住民の方々の声を聞くと、例えば障がい者の施設や介護施設、そういったところにはマスクは配布されるけれども、保育園は入っていないという話がありました。今回の大事な施策の中でいくと、やはり介護のほうは大事で、例えば保育園のほうは大事にしてくれないのだとかというような声も出るわけです。やはりそれは私から見ると、はっきり各課長の手柄争いみたいな、健康福祉課だから自分たちの該当する所管する障がい者の方々にはマスクを配るとかというような部分が私からしてみると見えてしまうのです。でも大事なのは、全町民のことを思っているマスクがどれだけ必要なかということがとても必要であって、それは今の仕組みであれば各課から意見を聞いて提案してくださいという形でいくと、これは非常に難しいと思うのです。今日、白老観光協会さんと懇談させていただいた中でいくと、その経済対策でいうと、もっと効果的な対策というのが出るはずなのです。今、経済対策として大事なのは、町民の皆さんが支え合うような、1次産業を支え合うような取組であると私は思うのですが、私が見える形でいくと、白老町は町長を含め、1次産業を守るという気持ちが足りないと思っています。十勝管内の芽室町では、若手職員がチームを組んで飲食店を支えるということでクラウドファンディングをして、スナック等も含めた飲食店を支える取組をまちの職員がやっています。自分たちが世話になった飲食店を守らなければならないといって有志の会がそういうことをするわけです。今こそ大事なのは、精神論的なことを言って申し訳ないのですが、やはり町長自らがこのまちの産業を守るのだという、その宣言、それが大事なのだと思うのです。ですから、先ほど町民に10万円が給付されて16億円のお金が動いているわけです。これは商品券とか何とかというよりも大きなお金が入っているわけです。ぜひ、そのお金を使って、今白老牛の生産農家が本当に大変だと、であれば牛肉をきちんと買いましょうとか、小規模のシイタケ屋、例えば竹浦でいうと星さんとか、優秀なシイタケを作っている小規模農家、こういった方々は実際に駅北インフォメーションセンターで本当は物を置いていただきたいと言っていた方ですから、それがこうなってしまうと物も売れなくなります。ただ、やはりそれはそういった小規模な生産農家がいるの白老の産業が成り立っているというところで、改めて町民の皆さんも自分たちの足元の産業を救うようなことをしなければならぬと私は思うのです。では、漁業者に私はヒアリングに行ったら、今回の個人事業主は100万円がもらえるものがあります。これはもう漁組が音頭を取って白老支所が

組合員の方々の申請を進めています。百何十件です。これは、もうコロナウイルスが始まって、本当に漁獲高が下がっているのです。今はそんなに魚種がないですからそういったものでもいいのですが、これからが大変です。7月に向けてホッキ貝、毛ガニ、これは今、飲食店、料亭等は閉鎖していますから、加工屋さんが去年は175トン余りのホッキ貝を確保していますけれども、それが売れなくなるわけです。そうすると、去年まではお客さんは料亭などなのですが、これから白老町はホッキ貝これだけ獲れますというのは決まりますけれども、だけでもそれが決まっても買い手がいなくなったら困ってしまうということなのです。実際に隣町の苫小牧市を見ると、ホッキ貝も漁期が早いですから、かなりもう大変な状況になっています。それが白老の漁業界もそういった部分に直面します。であれば、これから7月に向けて皆さんで町民を上げてホッキ貝を買う運動を進めるなど、そういった展開が私は必要だと思うのです。ですから今回、白老観光協会さんや、前回白老商業振興会の皆さんとお話しましたが、やはりいかに公共性を持った取組を進めていくかです。それが大事です。それを進めていくためには、公共性ということであれば、我がまちのトップである町長がそういう宣言をして、町民を上げてそういう展開をしていきたいと思います。それができたら、上村白老観光協会副会長さんのような悩みとして、売り込みたいけど、こんな中でやってしまうと風評被害を受けてしまう。でもまちのトップがそれを掲げると、そんなことはないですという思いなのです。

**○委員長（広地紀彰君）** まさに西田委員からの町長が旗印となつてと、これは上村白老観光協会副会長からのご意見を踏まえたものだと思います。今、貳又委員からご指摘いただきました、町内にセクションをきちんと設けるべきだと。これはまちの危機管理の在り方にも関わる大変重要な提案だと思います。こういった部分にかかって、スピード感を持って、さらに様々な公平性、かゆいところに手が届くようなきめ細やかさだとか、様々なそういう公共性を担保していくためにも非常に重要なお意見だと思います。

及川保委員。

**○委員（及川 保君）** 貳又委員の話がありましたけれども、町長、副町長を含めて理事者の皆さんは危機感がないと私は思うのです。結局、国の対策を待っています。今回も1億900万円の支援があったわけですね。初めてこの16件の様々なマスクを含めた対応がされたのです。それであるのならば、次また第4弾が来るはずなのです。まち独自の対策事業をしました。10万円の保証料の部分がまず1発目にあつたのです。こういう対策がまた国が出るはずですから、それを待っていると、これは6月末とか、そういう状況になると思うのです。だからそういう形ではなくて、今、我々の委員会がやっていることは、貳又委員からあつた、今やらなければいけない部分をまちが独自にやりなさいということをお話を私にくだい話をするのですが、その1点なのです。だから副町長のお話を聞いていても分かるのですが、危機感を持っているような雰囲気、どうも持っていないと私は思えてならないのです。白老はコロナウイルスの感染者は一人もいないです。そういう意味においては、やはりのんきなのです。皆さん頑張って倒れていないでしょう。今の状況で店を閉めていないでしょう。危ないというのは皆さんがおっしゃっていますから、これは非常に厳しい状況だと思うのです。だからそういうことにならないために、我々はこの常任委員会が動かなければいけないと

いうことを、ぜひ正副委員長に捉えてほしいのです。この1点だけです。とにかく、この1か月、2か月、3か月の後にやっても意味がないと私は思うのです。

○委員長（広地紀彰君） 西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 貳又委員の意見がもっともだと思うのは、上村白老観光協会副会長もおっしゃっていましたが、借りても返すめどが立たないと。やはり自分たちで稼げるようにしてほしいということでした。そういうことを切々と訴えていらっしゃったので、やはり町としてすべきことは、事業をして稼ぐための後押しを町が考えるべきだと思います。そここのところをつけ加えていただければありがたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 共通しているのは、皆さんがお話されているのは、このコロナウイルス後を見据えたご意見なのです。ただ、苦しいから何とか救急措置という止血の部分と、あとはそこからの活力をどうやって作り出していくのかという部分の観点です。そこに対して町長が旗印になって町がリーダーシップを取ると。あと危機意識、そしてスピード感、これは再三にわたって意見が出されている緊急を要するといった部分と、あとは先手を打っていくといった部分です。これからのことを見据えたという部分、今日の白老観光協会さんからもそういったご意見もありましたので、今西田委員のおっしゃったような町内消費喚起や活性化をつくり出していくという立場のご意見だと思いますので、その辺りを充実させる形として危機感を持って、スピード感を持ってやっていくべきだと。あと、庁舎内にそういったセクションをつくるべきだと。その情報収集等も含めた形として機能するのではないかと思います、そちらについてもよろしいですね。よければまとめに記載させていただきます。

長谷川かおり委員。

○委員（長谷川かおり君） 長谷川です。スピード感を持ってというところで、あとはもう一つ、福田白老観光協会会長がおっしゃっていましたが、皆さんは不安感でいっぱい、もう疲弊しているし精神的ケアが必要だということもおっしゃっていましたが、蒲原白老観光協会専務理事も本当にスピード感を持って対応してくれる窓口が必要ではないかということをおっしゃっていたので、そういう何でも困ったことを私たちがしっかりと受け止めて行政に意見を言うことも本当にそれが私たちの仕事でもありますけれども、やはり拾い切れないところもたくさんあると思うのです。今回はコロナウイルスに関して対策本部が立ち上げられましたけれども、そういうまた別に何かあったときには相談できるような、そういう窓口というのは必要なかと私は思いました。

○委員長（広地紀彰君） 今の意見についてはよろしいですね。貳又委員のセクションにも関わるお話ですし、その必要性については異論ないと思います。

及川保委員。

○委員（及川 保君） 及川です。ほぼ私の意見は言い終えているのですが、先ほど誰かもおっしゃっていましたが、今回このコロナウイルスはここで終わらないのではないかとというのが大方の専門家の意見なのです。これはずっと続いていく、要するにコロナウイルスは消えないと。どこかで残っていて悪さをする状況がこれからも続くと。将来をきちんと見据えた対策をしていかないと、西田委員のおっしゃった情報収集、これは将来に向けての話なのです。将来そういうことがまた起

こり得る状況をきちんと認識して、それぞれ町民皆さんが認識して、まちも当然そうだと思うのです。そこをしっかりと認識していて様々な対策を打っていくと、これが非常に大事だと私は思っています。それともう一つは、まちが国から対策が出たときに、お金を受け取るための条件がやはり厳しすぎるのです。なかなかそれに合致しない業者さんが結構いるのです。そこをまちが独自ですると、そういった煩雑な、救えない人たちも救えるのです。そこをどうまとめてほしいかは、ちょっと今思いつかないですが、あまり条件をつけて振り落とすようなことではない対策を打ってほしいのです。今、危機的状況なのだということをまちに何としてもまちに訴えたいのです。

**○委員長（広地紀彰君）** 確実に手に届く給付の在り方と、簡素でスピード感を持った、そういった本当に困っている人に確実に届いていないですから。私も委員長として、その給付についても決定していくべきだと思うのです。支援の窓口はできることを私は評価していますし、町内喚起を促すプレミアム商品券も私は評価しています。ただ、それで終わりではない。及川委員からご指摘いただいたとおりで、これから危機への認識と、さらに確実にスピード感を持って届く給付、支援の在り方を今後も追及していくべきだと。これはおそらく今回の委員会の意見の最後をきちんとまとめるような形で記載されるべき内容なのかと思いますが、そのような捉えでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

**○委員長（広地紀彰君）** それでは、最後に確認をいたします。まず、固定費に対してきちんと緊急性を持って支援を取り組むべきだと。あとはパートや雇用の支援をマッチングといったキーワードも入れ込みながら支援をしていくべきだという点。そして、テイクアウトについては、ウーバーイーツのような宅配サービスなど、そういった制度も参考にしながらテイクアウトの支援を進めるべきだと。あとは、町長が旗印となって、またはリーダーシップといった部分に言い換えてもいいのかもしれませんが。そういった部分で広報も含めた宣伝広告の支援、活性化、そしてまちの賑わいをつくり出していくべきだといった部分。あとは、D I 調査ということで、今回の被害実態の産業業種別の調査を進めるべきだというご意見。そして町でお金が回る仕組みづくりと。これについては、西田委員の意見と共通している部分の捉えでよいと考えます。また、庁舎内にきちんとこういったことに対応していくセクションをつくるべきだと。そして、よろず相談の窓口的なものをつくるべきだというのをここに重ねて記載します。そして特に1次産品、これを町内で支え合う仕組みづくりが必要ではないかと。町内消費の喚起を含めてといった部分。そして、これからもコロナウイルスは消えないと、こういった部分で今後の危機への認識と対応。そして給付についても確実にスピードを持って支援者に届けていく給付の在り方を追求していくべきだと。支援を徹底していくというようなまとめにさせていただきたいと思いますが、そのような内容でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

**○委員長（広地紀彰君）** では、このような内容で正副委員長により報告書案を作成し、ヒアリング等で皆さんお越しになるとお思いますので、できれば6月4日にはお手元に配付をしたいと思えます。その後、委員の各位からご意見があれば、それを反映して、定例会6月会議の委員会報告として提出したいと思えますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） では、そのように取扱いをさせていただきます。

貳又聖規委員。

○委員（貳又聖規君） 私の意見の中で漁業者の関係について言いましたけれども、実際に今回の常任委員会の案件では、白老商業振興会のお話と、白老観光協会の話の中から進んでいるので、これは例えばということでの話なので、これをピンポイントで漁業振興のことで今度一般質問できないとなったら困るので、それは大丈夫でしょうか。その確認をさせてください。

○委員長（広地紀彰君） その扱いについては、ここでは判断できなくて、議会運営委員会に関わる話になります。ただ、一応見解として何うと、漁業者に対しての支援だとか、そういった趣旨での質問の中でコロナウイルスに対しての話に触れるとか、そういったあくまで趣旨は漁業者の支援、今回のコロナウイルスの影響実態調査、今ほかの委員さんからもそういった質問をいただきました。産業の振興の在り方という点について、商店街のコロナウイルスの影響だとかに触れるということは問題ないのではないかと。先般、小西議会運営委員長からは見解をいただいています。ただ、最終的な部分、議会運営委員会で質問の部分は審議されますので、そちらのご判断を確認していただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時02分

---

再開 午後 2時04分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

では、今そのようなたくさんのご意見を頂戴いたしました。委員長として特にお礼を申し上げたいと思いますが、まず今回も2回にわたってたくさん意見をいただいております。また、そもそも所管事務調査のテーマを変更して今回コロナウイルスに対して取り組むべきといった機動性を持った取組ができたのは、皆様からご意見をいただいたおかげです。まさに、まちに求められていることを議会としてこのような形で取り組むことができたのはひとえに委員各位のご理解とご協力の賜物です。ですから今後、年間予定も見直さなければいけない情勢です。ウポポイも延期していますので。ウポポイを見据えたという形で今後進めていけたらよいと思います。今回はこれで終わりにさせていただきますけれども、年間予定もテーマからもう一度皆様に見直しを図っていただい、再びこのまちの状況に合致する形での活動を進めてまいりたいと思ひましてお礼方、また改めてお願いも申し上げたいと思います。

では、定例会6月会議に向けて皆様から再度ご確認をお願いいたします。そして、3月に所管事務調査を行っていましたが観光振興計画の進捗状況と今後についての取組なのです。これはやり方としては2つあります。まず一つは、一応4月17日に担当課と実施していますので、それを基にして報告するというのも一つの案です。内容的には少々薄いものにはなります。もしくは、今回のこの観光振興計画は延期にして継続して取り組むと。このコロナウイルスの終わった6月以降に取り組むと。どちらがよろしいですか。委員からも延期してはどうかというご意見がありますが、私としても1回だけで報告する中身になっていくのはどうなのかということがありますので、延期をさせ

ていただくように通知をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） では、そのような形で進めてまいります。継続して開催していきますので、まずはそのようなことを確認させていただきます。皆様から何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

---

### ◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） これをもちまして、産業厚生常任委員会所管事務調査を終了いたします。

（午後 2時07分）